

小野城跡発掘調査ニュース

特別号 2(小野城跡発掘調査現地説明会資料)

平成20年10月26日

三重県埋蔵文化財センター



小野城跡遠景（昨年度の空中写真）

小野城跡とは

小野城跡は、三重県亀山市小野町にある東西500m、南北500mの城跡です。城主については同時代の書物が残っていないのでよくわかりませんが、江戸時代の書物では鎌倉時代に伊勢国の平氏の残党を率いて鎌倉幕府に反抗した「若菜五郎」や、室町時代から戦国時代に鈴鹿郡を支配していた関氏の家来であった小野氏とされています。現在でも城の中心部や字「大堀」には巨大な土塁（土を積んだ城壁）や堀が残っています。城内での発掘調査はこれまで4回行われており、今回は第5次調査になります。

原因事業 平成20年度一般国道関バイパス建設事業

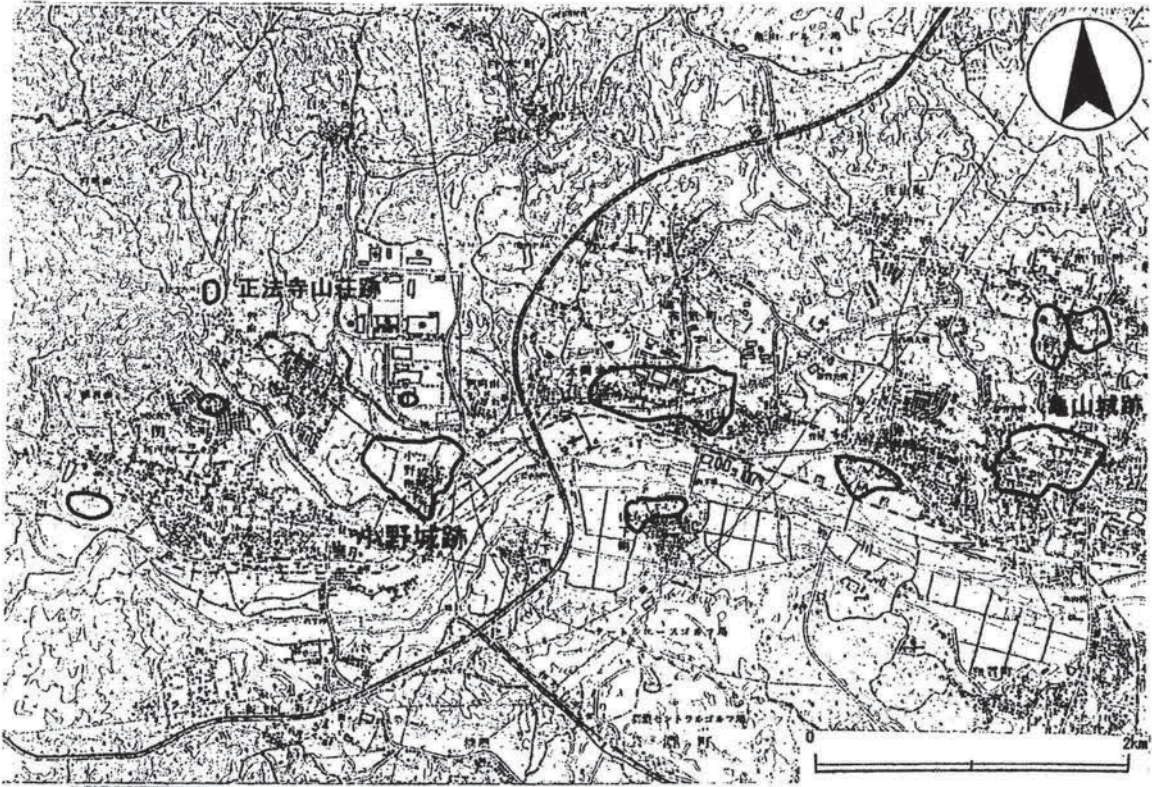
調査委託 国土交通省中部地方整備局北勢国道事務所

調査主体・担当 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター

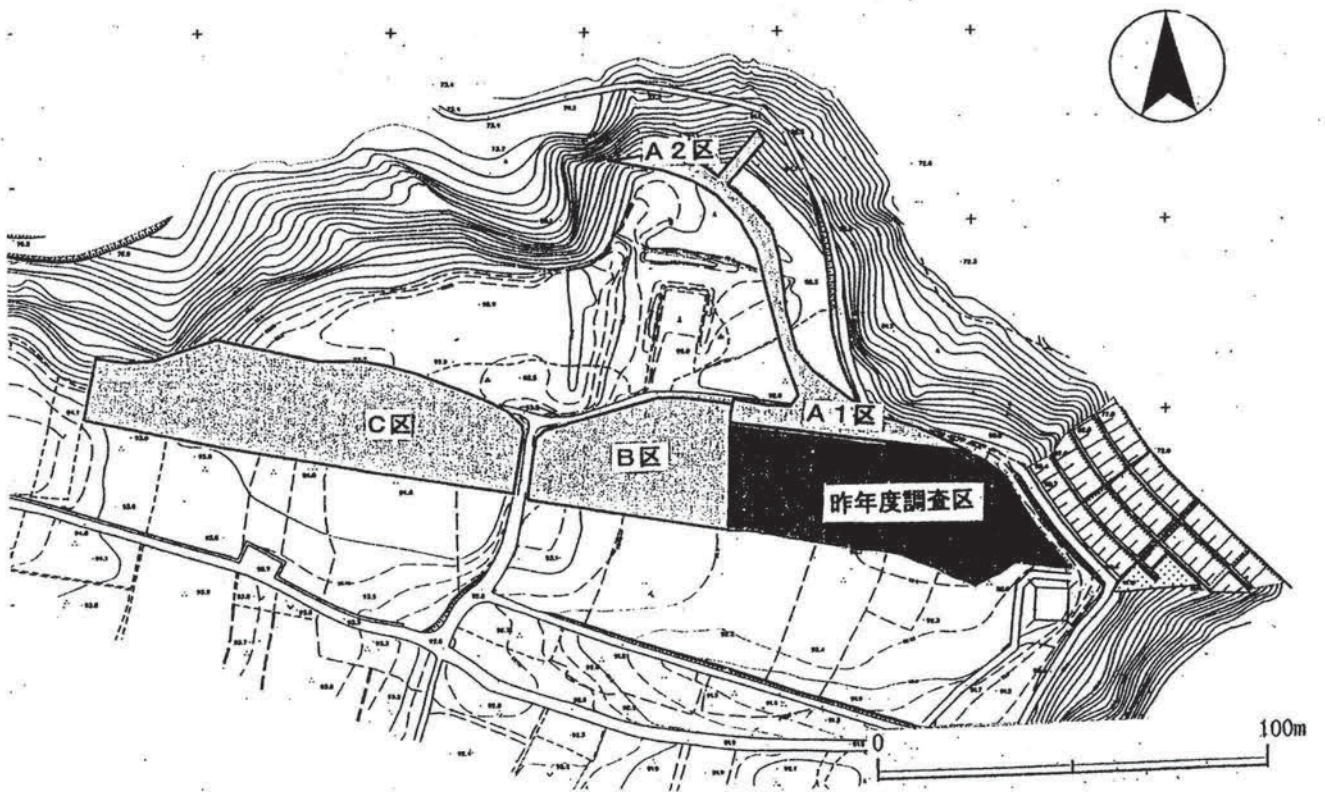
所在地 亀山市小野町

調査期間 平成20年5月20日～12月15日（予定）

調査面積 4,830㎡



小野城の位置図 (1 : 50000)



発掘調査区 (1 : 2000)

発掘調査の成果

昨年度行われた発掘調査では、鎌倉時代から戦国時代のものと考えられる道路跡と道路跡の南側で掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}を確認しました。また、普段使われていた茶碗や皿、鍋などのほか、銅銭^{どうせん}が2枚出土しました。今年度は、昨年度の調査区の北側および西側を発掘調査しました。



竪穴住居煙道

今年度の発掘調査でわかったこと

1. 城築造以前の竪穴住居^{ちくぞう たてあなじゆうきよ}が見つかりました。

B地区中央、やや北寄りで竪穴住居と考えられる方形の遺構^{いこう}（地面に掘られた溝や穴などの生活の跡）が見つかりました。東辺中央部には、土管のような形をした底の無い土器4個体が横になり、重なった状態で見つかりました。周囲は赤く焼けたところがあり、建物内に造られた竈^{かまど}から外に煙を出す煙道^{えんどう}と考えられます。



竪穴住居

B地区中央部には、竪穴住居^{ゆかめん}の床面の可能性がある部分的に焼けた粘土の塊^{かたまり}がいくつか見つかりました。残念ながら後の時代に破壊されたため分かりませんが、他にも竪穴住居が存在した可能性があります。



2. 道路の跡が見つかりました

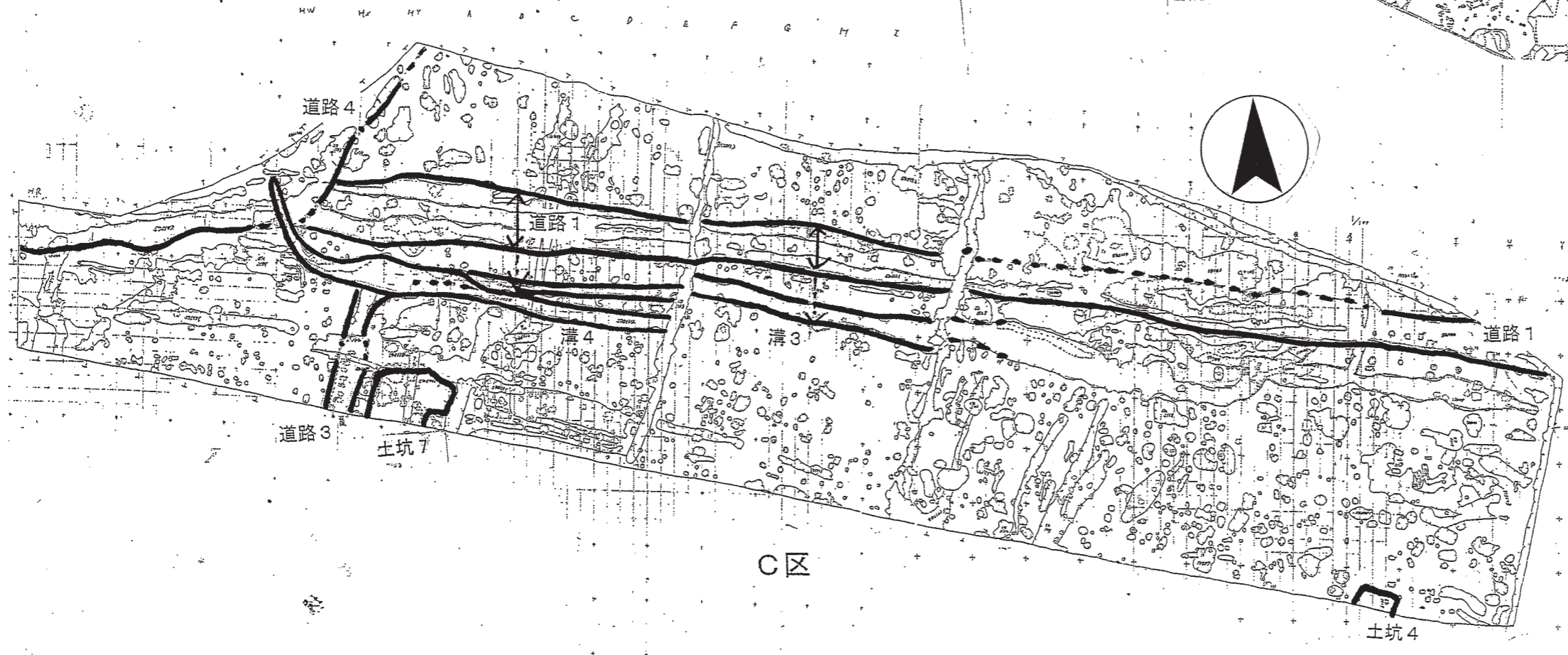
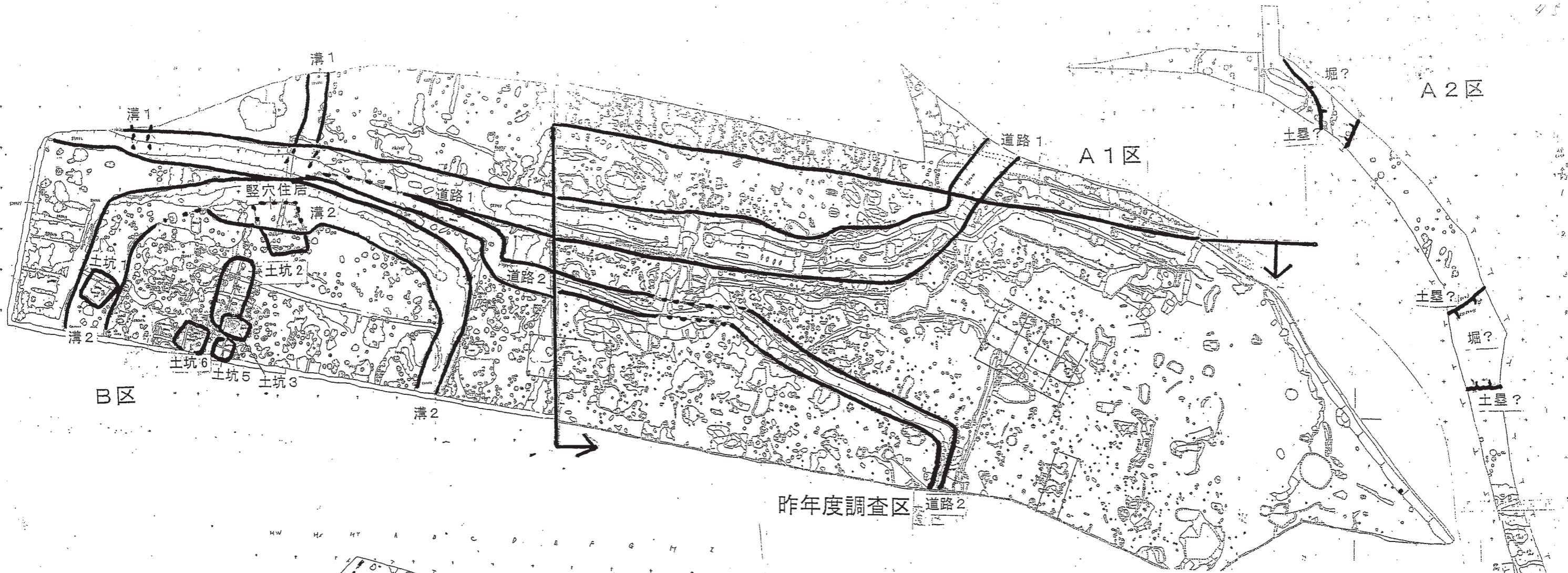
A1地区では、昨年度北東に曲がるのが確認されていた道路の続きが見つかりました（道路1）。道路1は北に向かって深くなっており、ここから斜面を下りて行くと考えられます。道の底には砂利が敷かれて硬く締まったところが部分的に確認されました。

A1区道路1

B地区では、区画溝^{くかくみぞ}（屋敷地の周囲を区画する溝）・道路が4箇所確認できました。一番古いものは調査区の北側にある方形に曲がる溝1です。東溝は墓地の西側にある土塁状の高まりに、西溝は土塁と考えられる高まりに



B地区北部溝1、道路跡



遺構平面略図 (1 : 400)

沿うことから、土塁に伴う堀である可能性があります。この溝は、東西方向は新しい溝（道路1）と重なっておりよく分かりませんが、南北方向ではV字状に掘られています。

溝2は、調査区南側にある同じく方形に曲がる区画溝です。東側の溝は底が幅広く平らであり、道路としても利用されたと考えられます

道路1・道路2は東西方向の道跡と考えられる溝状の遺構です。道路1は昨年度に見つかった続きの道で、A1地区の道路跡につながるものです。道路2は道路1から分岐する道で、東端で底が幅広く平坦となり、昨年度見つかった南に曲がる道路跡とつながります。

C地区では東西方向の道路跡と南に曲がる道路跡が見つかりました。南側には小野城の中心（主郭）があり、そこへ向かう道と考えられます。道路1は調査区の北西側が崩落しているため明確ではありませんが、調査区内でかなり深い溝となっており、下に向かっていていると考えられます。またこの崖も底が平らとなっており、道路跡であった可能性があります（道路4）。また道路跡1から分岐し、道路1と並行して走る溝3は北側がほぼまっすぐ縦に掘られており、道路1の南溝との間に幅広い平坦地があることから、道路1を拡張した可能性があります。道路3は南に向かう道路跡です。西側に側溝が掘られ、底では砂利を敷き硬くしまったところや「波板状凹凸面」と呼ばれる石や砂利の混じった不整形な穴が連続する道路特有の遺構が確認できました。



溝2と土塁と土坑1



溝2 東側



C地区全景



道路3（波板状凹凸面）

3. 道路のそばでたくさんの穴が見つかりました

昨年度の調査区では3棟の掘立柱建物の確認され、それ以外にもたくさんの柱穴と考えられる小さな穴が見つかりました。今年度もたくさんの柱穴が、特に道路跡の南側で見つかりました。今までのところ掘立柱建物としてまとまったものはありませんが、非常に深く掘られたものや中に石が入ったものが見つかり、いくつかの建物跡が存在したと考えられます。

B地区の南端では、床に粘土が貼られた方形の遺構（土坑（地面に掘られた大きな穴）1・6）、大きな石や粘土の塊が集められた方形の遺構、（土坑3）、炭・焼土を多量に含む方形の遺構（土坑5）などが見つかりました。また、C地区でも小さな炭の塊が多量に混じり、底から周りが赤く焼け、中に炭が詰められた穴が見つかったもの（土坑7）などが見つかりました。これらからはまとまって遺物が出土していますが、出土する遺物は鎌倉時代～戦国時代ものがほとんどであることから、この時代の掘立柱建物に関連する遺構であると考えられます。



土坑 1



土坑 5



調査区中央南部（土坑3、5）



土坑6底で見つかった穴

4. 城の土塁・堀と考えられる遺構が見つかりました。

昨年度・今年度の発掘調査区は、もともと茶畑だったところであり、地表面からはかつての様子はわかりません。ただし、現在森となっているところや調査区の南では、かつての土塁や堀と考えられる高まりや落ち込みが確認できることがあります。

今回の調査区では、明確に盛土がされた土塁を確認することはできませんでしたが、その可能性のある遺構が見つかっています。

A2地区は丘陵北部の平場から斜面にかかる部分を細長く調査したものです。西側の森となっている平らなところでは、土塁と考えられる高まりが確認できます。A2地区の調査では盛土は確認されなかったものの、深く溝を掘り、高まりとなっている箇所が3ヶ所見つかりました。元々盛土があったかどうかは不明ですが、土塁と同様の役割を持っていたと考えられます。南側の2箇所は大きな堀状の落ち込みを挟んでおり、この部分は堀か道路跡と考えられます。

また、B地区の西端は溝2を掘削して高まりになっています。この高まりの北側には、土塁状の高まりが残っており、この部分も土塁であると考えられます。



A2地区土塁(掘削前)



A2地区土塁(掘削後)

5 たくさんの遺物が出土しました

発掘調査で見つかった遺物は、ほとんどが「三日平氏の乱」(1204年)に関する時代の鎌倉時代頃、小野氏に関わりがあると考えられる室町～戦国時代頃の皿や茶碗・鍋などですが、なかには中国から輸入された青磁や白磁の碗、砥石や硯などの石製品が見つかっています。茶碗の中には、裏に墨で文字が書かれたものが見つかっています。

竪穴住居からは、煙道に使われた、底部に穴が空いた土管状の土器が出土しています。また少量ですが、鎌倉時代から戦国時代の土器に混じって、縄文土器や弥生土器、石器などがみつかっています。生活の跡は見つけれられていませんが、昔からこの辺りに人々が生活していたと考えられます。



竪穴住居煙道の土器



硯、墨書土器